

## はじめに —— 日々進歩する英語教育！ポジティブにチャレンジ!!

「日本人は、義務教育 6 年間で英語を学んでも、会話できない。だから、日本の英語教育はダメだ」とよくいわれます。でも、英語教師であれば、自分自身も英語学習者として、英語力の伸び悩みを通して「英語は短期間でしゃべれるようにはならない」と気づいています。

実際、1 年間留学した程度では、ある程度の日常的な生活に困らないやりとりはできても、アカデミックな内容の英語を読んだり、書いたりはできないでしょう。学習を積み重ねて、外国語を習得するにはかなりの時間がかかり、とても難しいことだと再認識すべきです。1 年間で 140 回の授業をしても、合計 116.7 時間で、日数に換算すると 4.86 日です。1 年間で約 5 日間。それを 6 年間勉強したところで、ペラペラ話せるようになるわけがないのです。だから、逆の発想をすると、この短い授業時間で、かなり効果的に学習できている生徒は多いともいえます。

このことを前提に、私が英語教師になった 1986 年までさかのぼって日本の英語教育を振り返ると、その進歩の大きさに驚かされます。まず、教室にネイティブスピーカーが登場しました。ALT とのチームティーチングが、その翌年から始まったのです。JET プログラム「語学指導等を行う外国青年招致事業」により、日本中の学校に入ってきたました。また、その数年後には現職教員の大学院長期派遣により、地元の大学院に行きやすくなり、第二言語習得の理論を学んだ教師が現場に増えてきました。さらに、1995 年、Windows95 とともにインターネットが普及し、数々の指導方法が紹介され、教材や動画が入手しやすくなりました。さらに、小学校でも英語を学ぶようになり、英語は中学校で初めて学ぶ教科ではなくなり、新入生もすでに英語を多少なりとも知って入学するようになったのです。

いつまでも英語教育を批判しているよりは、この進歩を前向きに捉え、さらに効果的な指導方法を皆さんで共有していきましょう。

大塚謙二

## contents

はじめに——日々進歩する英語教育！ポジティブにチャレンジ!! .....3

Chapter

**1**

### 生徒のやる気は、 教科書の使い方次第！

- 1 教科書という「素材」をおいしく料理しよう! .....8
  - 2 教科書で何を教える?——指導書活用のススメ .....10
  - 3 ポイントは教科書の構成・内容を考えた使い方 .....12
  - 4 生徒に力をつける授業の工夫——How do you teach? .....14
  - 5 教科書を使った授業をもっと魅力的にするために .....16
- ◎ column 1 英語教育の「常識」を見直す大切さ .....18

Chapter

**2**

### 教科書を開く前の しかけと工夫！

introduction 教科書を開く前にできること .....20

- 1 新出語句で内容を予想させよう .....22
- 2 「〇〇といえば……」——ブレインストーミングで連想させよう .....24
- 3 本文の内容をクイズにして予想させよう .....28
- 4 本文内容の画像、動画、本物、なりきりで刺激しよう .....32
- 5 ピクチャーチャートで予想させよう .....34
- 6 ピクチャーチャートを英語で表現させよう .....36

◎ column 2 映像の力 .....38

**Chapter**

# 3

## 本文を読む前に、 やる気に火をつける！

introduction 教科書を開いてからできること	40
1 插絵や写真を英語で表現しよう	42
2 插絵やタイトルについて英語で「1分間チャット」	44
3 插絵やタイトルについて英語で「1分間スピーチ」	46
4 テーマについての裏情報やうんちくクイズで Q&A	48
5 新出文法・表現を探せ	50
◎ column 3 授業と家庭学習をリンクさせる工夫	52

**Chapter**

# 4

## 基本的な活動で 内容理解を ぐんぐん高める！

introduction 本文指導における「内容理解」の基本	54
1 自作プリントを作ってみよう	60
2 自作プリントでやる気にさせる	68
3 TF リーディング	72
4 リスニング活動で理解させる	74
5 リーディング活動で理解させる	78
6 4技能を高める本文指導	80
7 主人公（主語）は何をした（動詞）	84
8 理解しやすい日本語 Q&A reading	86
9 スピーキング力を高める英語 Q&A reading	90
10 音読に力を入れる	94
11 国語授業のように発問で理解を深める	98
◎ column 4 生徒の限界は教師の予想をはるかに超える	102

Chapter

5

アクティブ・ラーニングで  
主体的・対話的に  
深く学ぶ！

Introduction	アクティブ・ラーニングとは教授・学習法の総称	104
1	意味のまとめでスラッシュリーディング	106
2	文法に着目する力を高める既習文法探し	108
3	文脈を理解する（並べ替えをしながら読む）	110
4	アウトプット中心の本文指導	112
5	迷子の英文を本文に戻そう	114
6	音声を聞いて同時通訳	116
7	疑問文を作りながら理解を深める	118
8	タイトルをつけ直そう	120
9	写真・ピクチャーチャートの並べ替え	122
10	謎のX（代名詞）を調べ尽くそう	124
◎ column 5	パフォーマンス活動の魅力	126

Chapter

6

発展的な  
アウトプット活動で  
学びを深める！

introduction	本文理解からアウトプット活動につなげる	128
1	教科書で「発表力」を高める活動	130
2	教科書で「即興力」を高める活動	132
おわりに		134

# 1 教科書という「素材」を おいしく料理しよう！

## ●日本の英語教育とともに進歩する英語の教科書

「はじめに」でも述べたように、日本の英語教育の進歩とともに教科書の改良がなされてきています。私が教師になった1980年代の教科書のサイズはA5判。しかも印刷は白黒中心の紙面でした。時代とともに少しづつサイズは大きくなり、2018年度版はAB判（縦はB5判、横はA4判）にまで拡大され、カラー印刷であることはもちろん、カラフルな写真も掲載され、誌面における情報量が格段に増えました。

その進歩に伴い、教科書のシラバスには従来からの文法を中心とした文法シラバスや買い物、道案内、電話表現などの場面シラバスに基づいた内容を中心に、「リスニング」「スピーキング」「リーディング」「ライティング」に特化した4技能を鍛えるための既習事項の復習を中心としたページが加えられています。さらに、学期に一度はパフォーマンス活動を取り入れ、人前で英語を使って発表する力をつけるためのスピーチ、スキット、落語などのページも設定されています。

このように、日本の英語教育をよりよくするために各社が競い合い、さらに諸外国の英語教育も参考にしながら、日々改良が加えられています。

## ●制限だらけの教科書づくり

教科書は「内容がおもしろくない」とよくいわれますが、その背景には、

いくつかの乗り越えることができない理由があります。例えば、とても感動的な話があり、それを教科書で扱うための本文を作ることを想像してみてください。あなたなら英語学習のビギナーに対して、難しい語句や表現を抜きにその感動を伝えることができるでしょうか。おもしろさをそのまま理解させる英文を作ることはできるでしょうか。文章のおもしろさは、ストーリーの展開やセンスのいいユーモア、感動的な出来事や予想外の結末などです。だから、教科書では伝えたいことのエッセンスである木の幹の部分を表現することはできても、枝、小枝、葉などの細かい部分のニュアンスの描写が難しいのです。

また、使いたい語句の語数制限、難易度の制限があります。例えば、「酸素」**oxygen** を中学教科書に使った時、「それは難しすぎる」との声を受けたことがあります。しかし、その単語も上級学年ではOKになることもあります。また、1ページに使われる語数も、学年が進むと増やす必要があります。その時に、1ページの語数だけではなく、新出語句の数にも配慮します。多すぎると生徒の負担になりますし、現場の教師たちから苦情がくることもあります。

文法の使用制限も教科書づくりの厳しさに拍車をかけます。「この表現は不定詞を使いたいのに！」「ここではまだ受動態は未習なので、この表現はダメですね！」……そんなやりとりは日常茶飯事です。誌面の大きさや1冊のページ数の制限はもちろんのこと、自然愛護、ボランティア、偉人伝、外国の文化など、盛り込まなければならないことは山ほどあります。教科書づくりの苦労が少しはお分かりいただけたのではないでしょうか。

教科書は骨格です。そこに教師が肉づけをすると、命が吹き込まれ、本来の魅力を発揮します。そして、生徒の知的好奇心をくすぐる授業をして、英語を好きにさせてください。教師の努力は生徒の英語力アップにつながり、その成果がさらに教師を成長させてくれます。教科書という素材を最大限に活かして、楽しく効果的な授業をしましょう。